

## 建設業経理士25回（財務諸表論）過去問ゼミ

令和2年9月1日

### ①過去問ゼミの学習方法

既に24回までの過去問ゼミ確認済んでいる方  
→25回のみ確認

今回新たに過去問を実施する方

→10回～19回までの過去問ゼミ（網羅型）確認  
24回以降は、個別型です

### ②過去問題集について

TAC（1,800円）、ネットスクール（2,000円：簡易テキスト付）のいずれかを用意した方がよいと思います。

建設業経理士のサイトでも無料で問題はダウンロードできますので、解き方のみ当社の講座で確認するのであれば（当社の講座は解答は講座内で説明しており、解答として作成はしておりません）特に必要はありません。

TACの最新号では16～25回の問題集なので、15回以前は建設業経理士のサイトからダウンロードして下さい。

### ③予想論点

過去問の傾向と予想を用意しております。参考にしてください。

### ④記述問題

模範解答は、簿記上級者・公認会計士合格者などが複数人で3時間以上かけて作成しています。本試験では、「主語＋述語＋さらに（例えば・具体的には）」作戦でいきましょう。

<第1問>

問1→偶発債務とは何かを説明しなさい

10点から12点

★本試験での対応→主語＋述語

偶発債務とは、ある条件を満たしたときに発生する債務のことである。(3点)

具体的には、手形割引時に将来その手形が不渡りになった際に生じる義務を保証債務として計上する場合などが該当する。(3点)

他には、債務保証をしている場合や裁判で損害賠償の可能性がある場合などのケースがある(2点)

そもそも満点を取ることはほぼ不可能です。でもこれくらいで5～7点はとれます。これくらいでも130字前後はあります。

問2→偶発債務の会計上の取扱いについて説明しなさい

偶発債務の会計上の取扱いは(問題文を書くことで字数を稼げます)、注記を行う事である。例えば、「A社に対する債務保証が1,000,000円ある」などと注記を行う。

(この程度しか書けないケースが多いと思います。これすら書けないこともあります。その場合は私なら)

会計上の取扱いを会計処理と考えて記させていただきます。

割引手形を例にします。

①手形受取時 受取手形 1,000 / 売掛金 1,000

②割引時 預金 980 / 受取手形 1,000

手形売却損 20

③保証債務費用 10 / 保証債務 10 (不渡りリスクが1%とします)

※これでも100文字です 2～3点はもらえると思います

記述式試験において空白が多いよりも、ある程度書けると安心感が生じ、残りの問題に前向きになれます。

建設業経理士試験は発表まで時間があります。各社の解答速報などを見ると、「少しでも書いておけば良かった」となります。ぜひあきらめずに加点目指して頑張ってください

正式な解答はネット検索などで復習して下さい

<第2問>

## 10点確保

2,3,4は1~2問取りたいですね。5/7で10点確保しましょう。

<第3問>

## できれば満点16点 悪くても14点

正誤問題のルール（例外なしは誤りと考えよう）

<第4問>

## できれば満点14点 悪くても12点

決算は初見の方が多いが、通常の工事原価の考え分かればいける

<JVの処理>

JVを会社全体、構成員を部門と考えればイメージしやすいかもしれませんが  
会社全体の管理と部門毎の管理を個別に管理しているイメージです

- ①前受け金は構成員でいったん受け取った後に、JVに出資した（投資勘定）イメージ
- ②発注者からJV、JVから構成員に請求するので、請求された側は未払計上すると考えよう
- ③JV側は資本金イメージ（A・B社出資金勘定）、構成員は投資勘定（JV出資金）のイメージ
- ④未払金の消込（構成員は出資金との相殺）
- ⑤決算→JV側は少し難しいが、構成員は通常の売上・原価計上の仕訳と考えればよい

<第5問>（その他有価証券・税効果をあわせるのは難しい）

## 24点は欲しい

<取りたい項目>機械装置・機械装置減価償却累計額・完成工事補償引当金  
退職給付引当金・貸倒引当金繰入額・完成工事高・未払費用・スワップ評価益→24点

	悪い場合	良い場合
1 問	10	12
2 問	10	12
3 問	14	16
4 問	12	14
5 問	24	24
合計	70	78

25回は合格率 24.4%と少し低め程度なので、第一問は「何か書けている」とそこそこの点数があった、もしくは精算表が 2 点×18 か所で 3 か所落としても 30 点程度あったのかかもしれません。

弥生カレッジCMC

